

## 平成26年度 学校関係者評価

学校法人岩谷学園  
岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人岩谷学園 岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 学校関係者評価委員会は「平成26年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて「平成27年度学校関係者評価委員会」を実施し、「平成26年度の学校関係者評価」を行いました。

開催日：平成27年5月21日 16:00～18:00

評価期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

学校関係者評価委員：岩田 直樹<関連業界企業> (有限会社 プライド)

花田 愛美<卒業生>

齋藤 久夫<保護者>

鈴木 弘文<地域住民>

学校担当者：鈴木 政信<岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 校長>

石崎 淳子<岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 教務主任>

阿部 和文<岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 教育MG>

白石 浩至<岩谷学園 本部・統合事務局 部長>

大関 恒夫<岩谷学園 本部・統合事務局 教務主任> 記録担当

### 議題

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 1、平成26年度学校活動概要説明            | 説明：鈴木 |
| 2、平成26年度学校自己点検・自己評価の概要説明    | 説明：大関 |
| 3、平成26年度学校自己点検・自己評価の評価項目別説明 | 説明：鈴木 |
| 4、平成26年度 学校決算等の報告・説明        | 説明：白石 |

### 議論等

上記の議題1～4の説明後、各委員による意見交換・議論等実施。

終了後、平成27年度学校関係者評価を実施し、その結果について以下のとおりまとめ、報告します。

平成27年6月5日

## 平成26年度 学校関係者評価報告書

学校法人岩谷学園  
岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校  
学校関係者評価委員会

評価対象：岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校 ビューティースタylist科

評価期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

評価日：平成27年5月21日

### 1. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

評価項目	評価
1 教育理念・目的・育成人材像等	<p>前年度と同様に学校の教育理念・目的・育成人材は明確で、基本的にはよく理解されている。ただ、自己点検・自己評価において委員全員が適切と評価はしているものの、それが全教職員に浸透しているかについてはやや疑問が残る、という指摘もあることを考慮しなければならない。</p> <p>学校の特色を踏まえた職業人教育、という面における理解についても概ね良好であるが、学生運営のお店「フェリーチェ」など実践の場の教育への活用や、職業教育本来の特色についての議論も継続的に重ねていく必要がある。</p> <p>社会情勢まで見据えた将来構想や、社会ニーズへの対応については、美容師や美容業界が時代の要求にいかに対応していくか、いかに対応されるか、が重要である。もともと美容業界は流行に敏感なところがあるが、「学校が目指す育成人材像と時代の要求」、このバランスをいかに取っていくかが難しいとことである。</p>
2 学校運営	<p>学校運営に関しては昨年度同様に全般的に良好で、学園内の各種規程やマニュアル等について、学園内のプロジェクト委員会等を中心に策定、改訂等が継続的に実施されている。ただ、一度作成された規程やマニュアルが適時改訂されていないケースが散見されるとの指摘があった。諸規定やマニュアルは作成も大事だが、それを運用していく事の方が難しいので、その点も留意する必要がある。</p> <p>コンプライアンスについては基本的に問題ないが、現在のように情報化が進んでいる時代に対応するシステムの構築と教職員の意識の向上の両方が基本になっている。</p> <p>教育活動等に関する情報公開は、この職業教育実践課程認定を契機に昨年度より、かなり進んできているが、学園全体から見るとまだ十分と言えない部分もあるので、さらに進めていく必要がある。</p> <p>学園として業務の効率化や情報の共有化を目指して、情報システムの構築について検討、作業を実施している。その効果も確認できてきているので、全体として今後も継続し、発展させていくことが重要である。</p>

3	教育活動	<p>職業実践教育課程において企業連携は極めて重要な位置づけになる。インターンシップの実施においては企業の協力は不可欠であるが、学生を受け入れる企業も何らかのメリットがなければ継続的に良好な関係を構築していくことはできない。職業教育を体系的に位置づけるためには、校内外の実践的な教育の成果を的確に評価し、その評価結果を次に繋げるという、PDCAサイクルが上手く回転しなければならない。</p> <p>授業におけるキャリア教育のカリキュラムについて、広く内外の識者や企業からの意見を積極的に反映し、適時見直ししていくという事が必要であるが、対応が後手に回りやすい傾向がある。教育のシステム等教育体制については、かなり充実していると言える。なかでも授業アンケートは年2回実施しており、結果についても評価のフィードバックが定期的に行われている。また、試験や成績評価の基準が明確化されており、それに基づいて進級や卒業の判定も行われている。</p> <p>教員の知識や技術向上のための研修は校内において夏・冬研修を実施しており、外部研修も時間の許す限り積極的その機会を学校としても作り、支援している。そして、研修で得られた情報等を学校全体で共有化している。</p>
4	学修成果	<p>資格（美容師）取得率と就職率に関しては比較的良好な状態と言える。ただ、資格（美容師）取得率と就職率は、常に100%が至上課題である。退学率についても前年に比較し低減されており、担任をはじめとした教育体制が順調に機能している証と言える。退学についてはもちろん0%が至上課題であることは、言うまでもない。</p> <p>就職に関しては、学校内にあるキャリアセンターとの連携が大変重要になっているので、学生・担任・キャリアセンターとの連携について、より効果的な支援体制について再度の検討を指摘する意見がある。</p> <p>卒業生の現状把握にやや不安が残る。卒業後の卒業生の活動状況（就職先や、仕事以外に活動など）や情報の把握が十分とは言えない。校友会はあるが、その活動も極めて限定的で活発とは言い難い面がある。</p>
5	学生支援	<p>学生支援に関しては、進路・就職に関しては概ね高い評価を得ているが、健康管理に関する支援については、いくつか指摘がなされている。保健室にカウンセラーを常駐する、というようなことは実現できれば素晴らしいが、学校の規模等から考えれば現状での実現は難しい。また、学生のメンタルヘルスケアや健康相談等の対応の仕組みが十分とは言えない、との意見は前年度から継続している問題であるが、まだ組織や仕組みの中で解決していく方策を模索中である。</p> <p>同じ岩谷学園の高等専修学校との連携は、前年度同様キャリア教育・職業教育の観点から継続的に実施しており、徐々に成果を上げてきている。</p> <p>保護者に対しては入学式の時を始め、1年間に複数回保護者説明会を実施し、保護者との意思疎通に努めている。保護者会設立の意見もあるが、必要か否か今後議論・検討していく必要がある。</p> <p>4の学修成果の箇所でも指摘したが、卒業生への支援体制は十分とは言えない部分がある。近年、個人情報保護の観点から、卒業生名簿等は作成しづらくなってきているなど、卒業生支援のための体制が作りにくい面があるのは否めない。また、校友会等の連絡が来ても、校友会というと、やや堅苦しい感じがするので敷居が高くなってしまふ。との意見もあるので、そのあたりを考慮して校友会以外の何らかの卒業生の集まりの方法も考えなければならないだろう。</p>

6	教育環境	<p>教育上の施設・設備に関しては、現在はまだ新しく必要十分なものであり、特に問題はない。</p> <p>インターンシップに関しては、職業実践専門課程認定以前から関連企業と連携を深め、積極的に実施してきている。今後、カリキュラム等の変更があれば、それに合わせ、より多くの企業との契約をさらに進めていく必要がある。海外研修は卒業年次にフランスに行っているが、全員参加にはなっていない。海外研修により国際的な感覚や異文化意識の高まりが期待されるので、今後も継続してもらいたい。</p> <p>防災に関して、学生全員分の必要最小限の飲料水と食料および災害用トイレは確保してあるが、それ以外の毛布等の災害用備蓄品の備蓄はまだ十分とは言えない。学校では火災や地震を念頭においた避難訓練を年1回実施しており、防災対策マニュアルの作成も完了しているが、前年度、委員から指摘のあった、学校だけではなく学園全体の防災対策にも平成27年度は取り組むことが決定しているため、防災対策はより推進されると期待できる。</p>
7	学生の受け入れ募集	<p>学生募集においてビューティースタylist科は、平成27年度生については平成26年内に定員に達しており、比較的順調に推移しているようである。ただ、今後少子化がさらに進むと学生募集は、より厳しさを増してくると思われる。</p> <p>学生募集を通して職業の素晴らしさ、本校の特長をいかに広く、上手く伝えられるかが重要である。また、HPなどを通じ本校の教育成果を積極的にアピールしていかなければならない。広報活動に関しては広報・学生募集担当にだけ、任せるのではなく教員の中から広報担当者を決め、オープンキャンパス等の機会や広報媒体を通して学校の活動状況をアピールしていく姿勢が必要である。</p>
8	財務	<p>財務に関しては概ね高い評価を得ている。学園全体として学生の充足率が上がり、本校においても学生の充足率が向上しており、それが財務上に反映していることになる。ただ、退学者比率がまだ高いようであり、これが当初予算や収支計画に齟齬を生じさせる原因になってしまう。美容師養成に関しては教材費が比較的高くなることは避けられないが、その負担に対しての検討も必要であろう。また、特待生制度の見直しなどについても議論の余地がある。</p> <p>学生からの納付金が財源の基本であり、そういった意味でいかに学生充足率100%を目指し、それを実現し、さらに継続していくかが大変重要になっている。</p>
9	法令等の遵守	<p>法令および規則、それに準ずる規程等に従い、コンプライアンスを重視して業務を遂行している。個人情報の保護については、学園の夏季・冬季研修などの機会を設け教職員対象に実施しており、常の啓蒙活動を行っている。</p> <p>自己点検評価については、平成26年度も公表するには至っておらず、その点を指摘する委員の声があがっている。自己点検評価を基に学校関係者評価を実施しているわけであり、その評価の公平性・透明性を示す意味でも、公開は避けられないものと認識しなければいけない。ぜひ平成27年度の学校自己点検・自己評価の公表について前向きに議論し、できるだけ早い時期に実現してほしい。</p>
10	社会貢献・地域貢献	<p>学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、美容に関する分野での具体的貢献は残念ながら実施されていないが、附帯事業である「粋生倶楽部」主体の、地域のシニア向け講座の実施や交流サロンの運営等の活動は継続的に行われている。また、アーティスティックB横浜美容専門学校も参加している、学園の人的ネットワーク・プロジェクト委員会で継続的に高島・平沼地区の活性化を</p>

		<p>目指した活動を前年度同様、継続して活動している。</p> <p>学園が会員になっている「美しい港町横濱をつくる会」の清掃ボランティア参加など、学生ボランティア参加の機会をつくるなど、学生ボランティア活動の奨励・支援を実施している。</p> <p>今後はアーティストック B 横浜美容専門学校ならではの、学生ボランティア参加の企画ができれば、学生の社会貢献・地域貢献として有意義なものになる。</p>
11	国際交流	<p>前年度同様で、岩谷学園としては積極的に留学生を受け入れているが、本校においては現在在籍している留学生はいない。現行法では留学生は美容師として日本で就労するための在留資格（技術や技能）の変更は認められていないのが、一番の理由であるが、日本語力の問題等の心配もあるのは事実ある。将来的に留学生等が美容師として日本で就労できるようになれば状況も変わってくるので、留学生受入れに関しては、いつでも対応できる体制を確立しておく必要がある。</p> <p>本校の学習成果等を対外的に積極的に発表することにより、国内外から評価されるような仕組みは残念ながら現在は構築されていない。主にホームページ上での公開や広告媒体である。ただ、今後は本校のみの課題ではなく、美容師の業界全体として国内外に色々な機会を通じて、その成果等を発表し、業界全体の発展のために努力していくことが望ましい。</p>

## 2. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校自己点検・自己評価委員会からあげられた意見や報告を学校関係者評価委員会として総合的に判断したところ、前年度同様に全体としては概ね合格点が与えられる。

学校としてインターンシップ等を含め、業界関連企業・団体等との連携は、より密にしていかなければならないが、業界全体の活性化を図る必要がある。そしてお互いがwin-winの関係になればならない。そして学校の教育や活動内容について国内外を問わず、広く社会に発信していくことも、使命のひとつである。

卒業生との良好な関係を作りだし、かつ維持していくためには何をしたらよいのか。また在校生からの勉強、資格試験、生活、健康、就職など幅広い要望に対してどのように対応して問題解決に導けば良いのか。など多くの課題もあるが、少しずつ前進しているようである。ただ、学校情報のより積極的な公開という点では、昨年度からあまり大きな進展が見られないのは残念である。ビューティースタylist科においては定員に達しており、学校としての定員充足率の向上はそのまま学校の経営基盤の安定に直結する。定員充足率を100%に持って行くことは美容師試験の合格率100%と同様に常に至上課題といえる。

教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会の意見・要望・評価等をいかに教育の現場に活かすことができるかが重要であるが、それに対応できる力を持った教員と、それを実現できる組織の仕組みが重要になってくる。学校の理念や目標、また学生の夢を実現していくために教職員と学生がお互いに理解し合い信頼できる関係を構築するために、学園全体としても日々の努力を惜しんでほしいことを常に念頭に置いて行動してもらいたい。岩谷学園アーティストック B 横浜美容専門学校のさらなる飛躍に期待する。